

二項動詞文に見られる格助詞 「に」と「を」の交替

第37回中日理論言語学研究会
2014年4月13日(日)

関西学院大学大学院 博士課程後期課程 高山弘子

1. はじめに

- ▶ 二項動詞文「NP₁がNP₂ □ VP」
→ □ にどの格助詞が入るかは動詞によって決まってくる。
- ▶ 二項動詞文に見られる格助詞「に」と「を」の交替
 - (1) a. 歩くことができたため、混乱する病院では診察を断られた。痛み**に**耐え、仕事を続けた。半年後、足が動かなくなった。(毎日新聞2009年)
 - b. 創口は三針縫った。麻酔薬が切れていたのもので猛烈な痛み**を**耐えなければいけなかった。(『百年の旅人たち』李恢成)

1. はじめに

- ▶ 二項動詞文に見られる格助詞「に」と「を」の交替
(2) a. 中学校では友達もでき、今月下旬の体育大会に向け
練習に頑張ってます。(毎日新聞1995年)
b. 今、日本が阪神大震災のために大きな打撃を受けたが、
彼らは「被災地へ春風を運ぼう」と、日々つらい練習を
頑張っている。(毎日新聞1995年)

⇒「に／を＋耐える」「に／を＋頑張る」などの
交替のメカニズムについて考察する。

▶ 3

2. 先行研究

- ▶ 格助詞「に」と「を」において交替が見られる動詞

出典	主な動詞
森田(1981、2002など)	「頼る」「構う」「しくじる」「背く」「こらえる」など
村木(1982)	「勝つ」「(試験に／を)通る」
田窪・益岡(1987)	「頼る」「耐える」
森山(1988)	「落ちる」「ごちそうする」
塚本(1991)	「さわる」「頼る」「耐える」「(旅館などに／を)当たる」
杉本(1996)	「驚く」「喜ぶ」「苦しむ」「困る」「おびえる」「悲しむ」「悩む」 「こだわる」「憧れる」「励む」「ためらう」「耐える」など
Bando(1996)	「喜ぶ」「嘆く」「楽しむ」「迷う」「ためらう」「悩む」など
田中(1998)	「突っ込む」「悩む」「頼る」「振り向く」「苦しむ」など
山川(2004)	「喜ぶ」「悲しむ」「楽しむ」「驚く」「苦しむ」「困る」など
森山(2008)	「悩む」「苦しむ」

▶ 4

2. 先行研究

▶ 格助詞「に」と「を」における交替の要因

▶ 心理動詞

①動詞自体の持つ時間的意味の特徴(板東・松村2001)

②語彙概念構造レベルでの意味素の編入

(意味素の強弱)(山川2004)

▶ 動詞の分類なし

③「処置格」(田中1998)

④「見えに基づく対峙の関係」(森山2008)

▶ 5

2. 先行研究

▶ ①板東・松村(2001:86-87)

(3)a. 順子が彼らの突然の訪問に{一瞬／*しばらくの間}驚いた。

b. *順子が彼らの突然の訪問を驚いた。

(4)a. 子供たちがその思いがけないプレゼントに{一瞬／*しばらくの間}喜んだ。

b. 子供たちがそのプレゼントを{しばらくの間／*一瞬}喜んだ。

⇒動詞自体が持つ時間的意味の特徴によって助詞が決まる。

□「点的」出来事を伴う場合→「に」

□「持続的」出来事を伴う場合→「を」

▶ 6

2. 先行研究

▶ ②山川(2004:11-14)

- ▶ 「に」と「を」
 - 「に」→[感情の対象]の意味役割を表す意味格
 - 「を」→“意味的に空虚な”格
- ▶ 意味素の編入
 - 「に」の意味役割が動詞の意味に取り込まれる(意味素の編入)→「を」
 - 取り込まれない→「に」
- ▶ a.ニ／ヲを許容する心理動詞(「喜ぶ」「迷う」「ためらう」「悩む」など)
 - BECOME→「に」
 - BE→「を」
- ▶ b.二のみを許容する心理動詞(「驚く」「苦しむ」「困る」など)
 - BECOME→「に」
 - ※BEが強いと判断され「を」になる場合もある。

▶ 7

2. 先行研究

- ▶ ①②→心理動詞における格助詞「に」と「を」の交替
⇒動詞がどちらの意味を表すか

	時間的意味の特徴 (板東・松村2001)	意味素の強弱 山川(2004)
に	点的	BECOME
を	持続的	BE

▶ 8

2. 先行研究

▶ 「に／を＋あこがれる」

▶ 時間的意味の特徴

(5)a. 子供たちがフィギアスケートの選手に{しばらくの間／*一瞬}あこがれた。

b. 子供たちがフィギアスケートの選手を{しばらくの間／*一瞬}あこがれた。

▶ 意味素の強弱

山川(2004:14-15): [原因]の意味用法を持たないため、動詞のタイプが異なる。

(6)a.*太郎はその職業にあこがれた([原因]の読み)

b.*太郎はその俳優にあこがれた([原因]の読み)

▶ 9

2. 先行研究

▶ 「に／を＋耐える」

▶ 時間的意味の特徴

(7)a. 子供たちが虫歯の痛みに{しばらくの間／*一瞬}耐えた。

b. 子供たちが虫歯の痛みを{しばらくの間／*一瞬}耐えた。

▶ 意味素の強弱

[原因]の意味用法を持たない＝動詞のタイプが異なる。

(8)a. ひざを抱え、気の遠くなるような恐怖に耐えた。(毎日新聞 1995年)

b.*ひざを抱え、気の遠くなるような恐怖で耐えた。

⇒動詞の意味的な特徴が格助詞の選択に左右しにくい。

▶ 10

2. 先行研究

▶ 「に／を＋あこがれる」「に／を＋耐える」

(9) a. 若いころはスチュワーデスを夢見、東京にあこがれた。(毎日新聞2009年)

b. 富枝さんが、船場を憧れるように、私は、煩わしいしきたりや因習に囚われない近代的な世界に憧れているのよ。(『女の勲章』山崎豊子)

(10) a. 防水シートを屋根に掛けただけ。一人だけで氷点下の寒さに耐えた。(毎日新聞1995年)

b. 節電とは言っても、北海道の寒さはとにかく凍れる。節電に協力して寒さを耐えていたが、体調を崩し、ギックリ腰になってしまった。(gooブログ2012年)

▶ 11

2. 先行研究

▶ ③田中(1998:198-201)

(11) タクシー運転手が最近口をそろえてこぼすのが一般ドライバーの無謀運転だ。赤信号を平気で突っ込んできたり、高速道路の真ん中でわざと急停車してみたり、はたまた道路をふさがれたといって車をぶつけるまねをしたり…。(日経 1997.4.21)

□ 「意識的、意志的な強さが感じられ、何らかの処置をほどこす」
→ 「を」(話し手の意図性を含意する「処置格」)

(12) a. 結婚を悩んで自殺した。

b. ?結婚に悩んで自殺した。

- a. の「を」→「結婚を(どうしたら解決できるかということに)悩む」
- b. の「に」→「とるべき選択行為に焦点がおかれる」

▶ 12

2. 先行研究

▶ ④森山(2008:232-234)

- (13) a. 進路に悩む。
b. 進路を悩む。
- (14) a. 苦痛に耐える。
b. 苦痛を耐える。

- 「視点領域のガ格参与者に対峙する対峙領域の能動的参与者」
→「に」
- 「視点領域のガ格参与者を起点とする動力連鎖の支配下に置かれた視点領域の受動的参与者」→「を」

▶ ③④→格助詞「に」と「を」の交替

⇒主体の意志性が強いのか、働きかけが強いのか

▶ 13

2. 先行研究

▶ 「に／を＋悩む」

- (15) a. *悩もう。
b. *悩め。
c. 若い時はうんと悩め。(仁田1991:245)

(16) 婚活シートは、見知らぬ男女が隣同士で観戦できる特設シートで、
結婚に悩むファンを後押ししようと企画された。(毎日新聞2009年)

(17) より多くの結婚に悩まれている方が、フォーリングスクラブで幸せになることを願っております。(TWC)

(18) この結婚を1年悩んでいます。今はまだ恋人同士でいいと思っているのですが彼は結婚を望んでいます。(TWC)

(19) ですが、彼の収入がとても低いので、結婚を悩んでいます。(中略)
結婚に踏み切れないのです。(TWC)

▶ 14

2. 先行研究

- ▶ 「あこがれる」⇒意志性なし。

(20) a.*あこがれよう。

b.*あこがれろ。

- ▶ 「耐える」⇒意志性あり。

(21) a.耐えよう。

b.耐えろ。

(22)しかし、いまの麻生が懸命に孤独に耐えているとも見えない。むしろ、小沢のほうが、孤独な男に映る。(毎日新聞2009年)

(23)戦後五十年も苦痛を耐えてきた沖縄県の人々を思う時、首長の
大田昌秀知事の姿勢に理解するのは当然である。(毎日新聞1995年)

⇒意志性が格助詞の選択に左右しにくい。

▶ 15

3. 研究の目的

- ▶ [原因]の意味用法を持たない心理動詞
「あこがれる」「耐える」と、それ以外の動詞を分析。
- ▶ [原因]の意味用法を持たない二項動詞と共起する
格助詞「に」と「を」の交替を、意味を中心に考察。

▶ 16

4. 研究対象と使用データ

▶ 研究対象

二項動詞と共起する、「対象」の意味用法を表す格助詞
「に」と「を」で、交替が見られるもの

※三項動詞、サ変動詞、複合動詞は除外。

(24)a.被災地への輸送手段が回復すれば、外国の援助に頼る
必要はない。(毎日新聞1995年)

b.だが、スーダンでは投資家などが生産した穀物の7割を国
外へ輸出しているのに、国は海外からの食料援助を頼る
皮肉な状況にある。(毎日新聞2009年)

⇒a.「外国の援助にXを頼る」b.「Xに食料援助を頼る」

▶ 17

4. 研究対象と使用データ

▶ 「対象」

述語が表す動きや認識などに対し、その動きの影響を
受けるもの、認識が向けられるもの

- 動作の対象—働きかけの対象、言語活動の対象
- 心的活動の対象

(日本語記述文法研究会2009:39-45)

※「旅行記者に憧れていた」「自民党に勝つ」など、
「人を表す名詞+に/を」のものも含む。

▶ 18

4. 研究対象と使用データ

▶ 分析対象

「あこがれる」「耐える」「頑張る」「努める」「励む」「親しむ」
「勝つ」

▶ 抽出方法

- 1) データを形態素解析し、「に+V」でも「を+V」でも出現している動詞を機械的に抽出。
※「mecab0.99」「unidic-mecab 2.1.2」を使用。
- 2) 「対象」の意味用法を表す格助詞「に」「を」で交替現象が見られる動詞を手動で確認。
- 3) 「に／を+V」の用例数の合計が多い上位の語を選出。

4. 研究対象と使用データ

▶ 用例の抽出、共起頻度・共起率の算出

分野	データ	延べ語数
新聞	毎日新聞(1995年・2009年)	約5799万語
小説	現代日本語小説121冊	約1740万語
	新潮文庫280冊(『新潮文庫明治の文豪』『新潮文庫大正の文豪』『新潮文庫の100冊』『新潮文庫の絶版100冊』)	約3483万語
	ネット小説66冊	約328万語
国会会議録	衆議院予算委員会(第1回～第177回) http://kokkai.ndl.go.jp/	約1億6057万語
ブログ	gooブログ(2013年7月31日時点で、アクセスランキング上位100名の2010年1月1日～2013年7月31日分のブログ) http://blog.goo.ne.jp/	約8306万語
話し言葉	日本語話し言葉コーパス	約752万語

4. 研究対象と使用データ

▶ 用例の抽出

分野	データ	延べ語数
11分野	現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)	約1億430万語
ブログ	筑波ウェブコーパス(TWC)	約11億語

5. 「に」と「を」における選択の傾向

▶ 動詞の共起頻度と共起率

動詞	に	を	計	に共起率	を共起率
頑張る	79	111	190	41.6%	58.4%
耐える	3305	210	3515	94.0%	6.0%
勝つ	3129	182	3311	94.5%	5.5%
あこがれる	534	20	556	96.0%	3.6%
励む	1640	57	1697	96.6%	3.4%
親しむ	480	6	486	98.8%	1.2%
努める	8924	57	8981	99.4%	0.6%

5. 「に」と「を」における選択の傾向

▶ 「あこがれる」

● 「に＋あこがれる」

(25) 若い頃に、わたしは古河左江さんに憧れていた。(『湖水際』平岩弓枝)

(26) 高校生のときはアメリカにあこがれていた。(毎日新聞1995年)

● 「を＋あこがれる」

(27) 富枝さんが、船場を憧れるように、私は、煩わしいしきたりや因習に囚われない近代的な世界に憧れているのよ。((9)b再掲)

(28) 編集者というのは、まァ、バーの女給さんみたいなものである。いうなれば接客夫(婦に非ず)だ。サービス業である。若い女給さんが、マダムをあこがれるように、若い編集者は編集長をめざす。(BCCWJ)

(29) あれほど冬山をあこがれていたのに、たった三日間の山での生活が、もう飽き飽きしたようなそぶりで山をおりるのは、自分ながら情けない気持だった。(『孤高の人』新田次郎)

▶ 23

5. 「に」と「を」における選択の傾向

▶ 「あこがれる」

(30) 私は若いころ、文明からの逃避をあこがれた。が、歯が痛ければ歯医者さんにゆくということがあるかぎり文明からの逃避など夢物語で、逃げられない以上は、この文明に積極的に参加するほかなく、また文明の統御についても一人一人が考えざるをえない。(『風塵抄』司馬遼太郎)

(31) ピアニストなら、誰もが出場を憧れる世界最高レベルのピアノコンクールがある。ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクール。(TWC)

(32) スイスのリゾート地ダボスで毎年冬に開かれる世界経済フォーラム、通称ダボス会議。(中略) 世界のビジネスリーダーがリアルな議論を交わし、未来の経済を動かすことができる、ビジネスマンなら誰もが一度は参加を憧れる会議である。(TWC)

▶ 24

5. 「に」と「を」における選択の傾向

▶ 「あこがれる」

● 「に／を＋あこがれる」

(33) a. テレビの映像は都会のことばかりだから若い人たちは都会にあこがれる。(毎日新聞1995年)

b. 「Uは父親の仕事を嫌がって出ていった人たち。Iは縁もゆかりもない土地にあこがれてくる。応募者は圧倒的にIが多い」(毎日新聞1995年)

c. 所得の多い、また相当の中流階級以上の青少年も農村に不満を持ってこの都会をあこがれて来るわけなんです、この青少年の持つ不満は何だというように分析をされておるのか、(第51回衆議院予算委員会第一分科会 第2号)

● 「に」→あこがれる対象への着目：強

● 「を」→あこがれる対象への着目：弱

▶ 25

5. 「に」と「を」における選択の傾向

▶ 「耐える」

● 「に＋耐える」

(34) 豪胆で、冷酷にさえ思える多田も、それなりに強いストレスに耐えているのだろう。(『棄霊島』内田康夫)

(35) 一つひとつ試練に耐えているうち、物や金に対する欲がなくなった。(毎日新聞1995年)

(36) 杉崎中尉は、唇をひき搾り、こみ上げるものに耐えていた。(『二つの祖国』山崎豊子)

● 「に／を＋耐える」

(37) a. でも、今ほどにかく手術は無理なんです。手術に耐えられるだけの体力がつくのを待つしかありません。(『使命と魂のリミット』東野圭吾)

b. 15時間にも及ぶ大手術を耐え、現在も年数回の通院を続けている。(毎日新聞2009年)

▶ 26

5. 「に」と「を」における選択の傾向

▶ 「耐える」

- (38) a. 戦勝国・米国の大男たちの攻撃に耐え、力道山の反撃の空手チョップがさく裂するのを一目見ようと、街頭テレビ前は大勢の人々でごった返した。(毎日新聞2009年)
- b. 制限時間2分13秒の間、3体のルルサスの戦士から攻撃を耐える。(TWC)
- c. 清水は後半7分、ゴール左からの直接FKを山本真が決めて先制。守備を固めて川崎の攻撃を耐え、攻めはカウンターに頼る。(毎日新聞1995年)
- (39) a. 1-2で敗れましたが、(中略)日本が最終予選に進出しました。(中略)難しい試合に耐えて2次予選突破したのだから立派なものですヨ。(TWC)
- b. それでもロツテのエースを目指すのであれば僅差の試合を耐えてこそその成瀬なのですが、(gooブログ2012年)

▶ 27

5. 「に」と「を」における選択の傾向

▶ 「耐える」

- (40) a. 30年以上の獄中生活に耐えたチベット人僧侶パルデン・ギャツォ氏(77)の半生を描いた。(毎日新聞2009年)
- b. 大統領は開幕戦と決勝戦を観戦、選手側も「二十七年間の投獄生活を耐えた大統領に鼓舞された」(同主将)と応じて世論は大きく盛り上がった(毎日新聞1995年)
- (41) a. 歩くことができたため、混乱する病院では診察を断られた。痛みを耐え、仕事を続けた。半年後、足が動かなくなった。((1)a再掲)
- b. 創口は三針縫った。麻酔薬が切れていたのもので猛烈な痛みを耐えなければいけなかった。((1)b再掲)

- 「に」→耐える対象への着目: 強
- 「を」→耐える対象への着目: 弱

▶ 28

5. 「に」と「を」における選択の傾向

▶ 「頑張る」

● 「に＋頑張る」

(42)「政治として区切りを付けなければならない。会社(チツソ)も再生に頑張っていただきたい」(毎日新聞2009年)

(43)私は、そういうことで、この点について賛同をいただける議員とともにこの実現に頑張っていきたいと思います。(第142回衆議院予算委員会 第15号)

● 「を＋頑張る」

(44)今大会初戦では前半9点差と食い下がられており、「今度は守備を頑張って、70点以内に抑えたい」と気を引き締めた。(毎日新聞1995年)

(45)二月。娘は夜中十二時に寝て、朝五時に起きる生活を頑張った。(毎日新聞1995年)

(46)夢中で子育てを頑張ってきたお母さんが、急に自由時間を与えられてとまどうこともよくある。(毎日新聞2009年)

▶ 29

5. 「に」と「を」における選択の傾向

▶ 「頑張る」

● 「に／を＋頑張る」の例

(47)a.もし、不本意に進学を断念した場合や、やむを得ず中退したとしても、学ぶための道は一つではない。親の経済格差を乗り越え、勉強に頑張ってほしい。(毎日新聞2009年)

b.徳島大に入学してみたら、教養課程が2年もある。先生から「大学に入れば好きな勉強だけできる。バラ色じゃ」と言われて受験勉強を頑張ったのにと、腹が立ちました。(毎日新聞2009年)

(48)a.私は定年後、ボランティアで老人ホームを訪ねて習字の手助けをしたり、コーラスを聴いてもらっているほか、民生委員として地域活動に頑張っています。(毎日新聞2009年)

b.「無所属だったが、これからはしっかり政治活動を頑張っていく」と決意表明していた。(gooブログ2011年)

▶ 30

5. 「に」と「を」における選択の傾向

▶ 「頑張る」

- (49) a. ネプチューンの堀内健さんなどを起用し、架空の新会社「1本満足急便(配)」を設立したという設定で、デリバリースタッフが自転車を中心に、夕方のオフィスに「1本満足バー」を配達し、仕事にがんばるビジネスマンを応援するーという企画。(毎日新聞2009年)
- b. 仕事を頑張るほど、それに比例した結果が出て、バイト代が面白いほど変化するそうだ。(毎日新聞2009年)

- 「に」→頑張る対象への着目: 強
- 「を」→頑張る対象への着目: 弱

5. 「に」と「を」における選択の傾向

▶ 「努める」

● 「に+努める」

(50) 架空・水増し発注は残念なことで申し訳ないことと考えている。今後は再発防止に努めたい。(毎日新聞1995年)

(51) 各駅などでは、係員を巡回させて異物の早期発見に努めるとともに、「異物を発見したら乗務員らに直ちに連絡してください」と車内放送で乗客に呼びかけた。(毎日新聞1995年)

● 「に／を+努める」

(52) a. アジアの社会を普遍的な枠組みで体系的に観察し、社会構造の把握に努めた。(毎日新聞1995年)

b. 関係機関を通じて被災状況の的確な把握を努めた。(BCCWJ)

5. 「に」と「を」における選択の傾向

▶ 「努める」

- (53) a. 「需給が大変逼迫していることを理解してもらい、これまで以上に需要抑制に努めてほしい」てほしい」と呼びかけた。(gooブログ2011年)
- b. 省エネ法の改正をさせていただきまして、運輸部門も新たに対象にさせていただくということで、しっかりと運輸部門のCO2の抑制を努めてまいりたいというふうに考えております。(第162回衆議院予算委員会 第17号)

- 「に」→努める対象への着目: 強
- 「を」→努める対象への着目: 弱

5. 「に」と「を」における選択の傾向

▶ 「励む」

- (54) a. 目前に迫った実験の成功こそが大きな目標の達成につながると信じ、今日も地道な仕事に励む。(毎日新聞2009年)
- b. 骨身を惜まず仕事をはげみ、夜なべ済まして手習読書、せわしい中にも撓まず学ぶ、手本は二宮金次郎。(BCCWJ)
- (55) a. きみはしばらくそのことを忘れて、勉強とピアノの稽古に励んでください(『しまなみ幻想』内田康夫)
- b. ところが、漸次稽古を励み地方巡業の時など、一日二十銭の草鞋銭をもらって苦労しながら勉強した。(BCCWJ)

- 「に」→励む対象への着目: 強
- 「を」→励む対象への着目: 弱

5. 「に」と「を」における選択の傾向

▶ 「親しむ」

- (56) a. 英国留学中にスポーツに親しみ「スポーツの宮様」として国民的人気があった。(毎日新聞1995年)
- b. 今度は各地域で、子供からお年寄りまでがそれぞれ自分の好きな種目を、自分の力量に合った程度のスポーツを親しむことができるようにということで、総合型の地域スポーツクラブの育成というのもやっておるわけでございます。(第159回衆議院予算委員会第四分科会 第1号)
- (57) a. 祖母の影響で幼少の頃からクラシック音楽に親しみ、LPレコードで音楽を聴くうちにオーディオにも興味を持つ。(BCCWJ)
- b. 小学校に入る前までにベートーヴェンやブラームスの交響曲を鼻うたみたいに親しんでしまい、そろそろバイエルをきちんと、ツェルニーを正しく弾かせなければ...と母は悩んだらしい。(BCCWJ)

▶ 35

5. 「に」と「を」における選択の傾向

▶ 「親しむ」

- (58) a. 少年時代から相模川の自然に親しみ、野鳥が好きだった塩原昭夫氏のカラー作品約50点を。(毎日新聞2009年)
- b. 華道は、武士の習わしとした茶道と同じく、精神修行の一環として普及し、日本の住宅様式にある「床の間」はこれらの背景から生まれた空間です。日本人のきめ細やかで優雅な性格が、四季を通じて自然を親しみ、草木花を愛で育む背景を作ったともいえます。(TWC)

- 「に」→親しむ対象への着目：強
- 「を」→親しむ対象への着目：弱

▶ 36

5. 「に」と「を」における選択の傾向

▶ 「勝つ」

● 「に＋勝つ」

(59) 内容的には最高ではなかったが、前期優勝チームに勝ててよかった。

(毎日新聞1995年)

(60) 勝負に勝ったけど、相撲に負けた。(毎日新聞2009年)

● 「を＋勝つ」

(61) 残りのリーグ戦を勝って、天皇杯も勝って終われるようにしたいです。

(gooブログ2011年)

(62) オウケンブルースリは昨年菊花賞を勝ち、ジャパンCで1馬身半差の5着。(毎日新聞2009年)

▶ 37

5. 「に」と「を」における選択の傾向

▶ 「勝つ」

● 「に／を＋勝つ」

(63) a. この結果、二回戦に勝った方が、早大を含めた優勝争いに残る。

(毎日新聞1995年)

b. 「一回戦を勝てば十分」(橋野監督)だったチームが、初出場で初優勝の偉業だ。(毎日新聞1995年)

(64) a. サッキ監督は「ベストの状態で臨み、すべての試合に勝たなければならない」と話した。(毎日新聞1995年)

b. 後期の名古屋は、ストイコビッチが出場したすべての試合を勝っているが、欠場した時は全敗。(毎日新聞1995年)

● 「に」→勝つ対象への着目：強

● 「を」→勝つ対象への着目：弱

▶ 38

6. まとめ

- ▶ [原因]の意味用法を持たない二項動詞文の「に」「を」の交替

- ▶ 「に」→対象への着目:強
- ▶ 「を」→対象への着目:弱

⇒対象に着目し、際立たせたいかどうか

7. 今後の課題

- ▶ その他の動詞での検証
- ▶ [原因]の意味用法を持つ二項動詞文の「に」「を」の交替との関係性
- ▶ 三項動詞文での「に」「を」の交替

主な参考文献

- 影山太郎(1980)『日英比較 語彙の構造』松柏社。
影山太郎(2011)「モノ名詞とデキゴト名詞」影山太郎(編)『日英対照 名詞の意味と構文』pp.36-60, 大修館書店。
杉本妙子(1998)「対象を表す格助詞「を」も「に」もとる動詞小考—日本語学習者の誤用を手がかりにして—」『佐賀大國文』26, pp.158-169。
田中寛(1998)「「を」格と「に」格の交替性について」『語学教育研究論叢』15, pp.191-209。
塚本秀樹(1991)「日本語における格助詞の交替現象について」『愛媛大学法文学部論集 文学科編』24, pp.103-127。
仁田義雄(1973)「動詞の格支配」『国語学研究』12, pp.64-54。(仁田義雄2010)「動詞の格支配」『語彙論的統語論の観点から』pp.51-65に再録, ひつじ書房。本研究では再録されたものを使用)
仁田義雄(1991)『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房。
仁田義雄(1993)「連語論—ヲ格名詞の対象性」『国文学 解釈と教材の研究』38(12), pp.49-53。(仁田義雄(2009)「ヲ格の対象性」『日本語の文法カテゴリをめぐって』pp.81-87に再録, ひつじ書房。本研究では再録されたものを使用)
仁田義雄(代表)(2009)『現代日本語文法2 第3部格と構文 第4部ヴォイス』日本語記述文法研究会(編), くろしお出版。

主な参考文献

- 板東美智子・松村宏美(2001)「心理動詞と心理形容詞」影山太郎(編)『日英対照 動詞の意味と構文』pp.69-97, 大修館書店。
益岡隆志・田窪行則(1987)『日本語文法 セルフマスターシリーズ3 格助詞』くろしお出版。
三原健一(2000)「日本語心理動詞の適切な扱いに向けて」『日本語科学』8, pp.54-75。
村木新次郎(1982)「動詞の結合能力をめぐって」『日本語教育』47, pp. pp.13-32。
村木新次郎(1988)『日本語動詞の諸相』ひつじ書房。
森田良行(1981)『日本語の発想』冬樹社。
森田良行(2002)『日本語文法の発想』ひつじ書房。
森山新(2008)『認知言語学から見た日本語格助詞の意味構造と習得』ひつじ書房。
森山卓郎(1988)『日本語動詞述語文の研究』明治書院。
山川太(2004)「日本語における心理動詞の格標示について」『日本語・日本文化』30, pp.1-20。
吉永尚(2008)『心理動詞と動作動詞のインターフェイス』和泉書院。
Bando, M. (1997) "Semantic Properties of -Ni NP and -O NP of Japanese Psych-verbs," 『大阪大学言語文化学』5, pp.165-177。